

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院

2020年6月

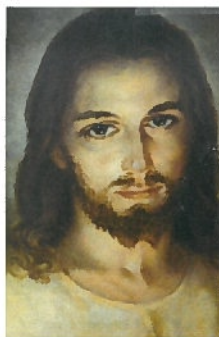
365号

【教会からの言葉】

使徒的勧告『キリストは生きている』より

キリストに恋しなさい

熱中したいのですか。美しい詩「恋しなさい」（言い換えれば、恋するがままに）が、語っているとおりです。「神に出会うこと、つまりは、決定的に熱烈に、神と恋に落ちること。これ以上に大切なことはない。あなたが恋しているかたは、あなたが思い描くことすべてに映り、そしてすべてにその痕跡が刻まれる。朝、床から出るのはその方のため、夕べもその方のためであり、週末はその方のために使う。読み取るものはそのかた、感じ取るものはそのかた、そのかたのために心を砕き、そのかたへの喜びと感謝で打ちのめされる。恋しなさい。愛に浸っていなさい。すべてが違ってくるでしょう」。神へのこうした愛によって、生活のすべてを情熱をもって過ごせるようになります。それは、聖霊の恵みによって可能となります。「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」（ローマ5・5）。



（『キリストは生きている』132）

目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	28
諸所の企画案内	29
郵送お申込みのご案内	36
あとがき	37

心の泉



宇治カルメル会修道院 中庭



第三卷

第二十九章 患難の時、神に願い、神を祝する

1 子

《私が、この誘惑、この患難にあうことをお定めになった主よ、「あなたのみ名は、世々に祝されますように」(トピト3・11)。私はその苦しみを避けられない。しかし、あなたが私を助け、私の益としてくださるように、乞い願います。主よ、私は今、悲哀のどん底にあります。私の心には平和がなく、試練に悩まされています。愛する父よ、私は何を言うべきなのでしょう。私は苦境に陥っています。「私を救い出してください」(ヨハネ12・27)。私がこうなったのは、深くへりくだり、あなたによって解放され、あなたに光栄を帰するためです。「主よ、私をここから救い出してください」(詩編39・14)。貧しい私には何一つできません。あなたがいなければ、どこへ行ったらよいかもわかりません。主よ、私に忍耐力を与え、助けてください。どんなに試練が重くても、私は恐れません。

2 神は救われる

この苦しみのなかにあって、私は何を言ったらいいのでしょうか？「あなたのみ旨がおこなわれますように」(マタイ26・42)と。私が苦しめられ、責められるのは当然のことです。嵐が過ぎ去り、晴天の日が来るまで私は忍ばなければなりません。いえ、忍びたいのです！しかし全能のみ手は、この試練から私を救い出し、その激しさを和らげてくれるでしょう。かつて私に対してしばしばそうして下さったように。主は、私が倒れないようにはかっけてくださいます。「私の神よ、あわれんでください」(詩編58・18)。「いと高き者の右手による変化」(詩編77・11)は、私にとって非常に辛くはあっても、神にとってはたやすいことなのです。》

第三十章 神の助けを願い、恵みが再び下ることを信じる

1 主

《子よ、私は「苦しみの日に慰めを与える主である」(ナホム1・7)。悲しみの時には私に近づきなさい。天の慰めをさまたげるのは、あなたが祈りにより頼みに来るのがあまりにも遅いことだ。私に向かうより先に、あなたはほかの慰めを求め、世俗のことで気をまぎらわそうとするからである。「より頼む者を救うのは私だけ」(詩編17・7)であり、私以外には力強い支えも、有益な忠告もなく、永続的な治療法もないことに気づくまでは、何一つ役に立たない。しかし、嵐は過ぎ去った。元気を取り戻し、私のあわれみの光によって力を得なさい。私はすべてを元どおりにするばかりではなく、豊かに満ちあふれんばかりに、立て直すためにあなたのをそばにいる。

2020-6 変わりゆく日々には神と親しく生きる

移り変わる日々の生活の中で、しっかりと変わらぬお方に根ざして生きてゆくために今日1日わたしのささやかな努力を先輩たちの励ましと祈りに支えられて過ごすことができますように。6月は7日は聖三位の祝日、1週間後14日にはご聖体の祝日を祝います。



「あなたは神の住まいである」という聖パロの言葉(1コリ3・16)を考えてみてください。聖三位は一日中、昼も夜もあなたのうちに住んでおられます。ご聖体のように聖なる人性はそこにはありませんが、天国ですであらかじめいる人々が拝している神はあなたのうちにおいでになります。…神があなたのうちに住んでいる、というより身近においでになると考える方がよければ、そのようになさってください。

～聖エリザベットの手紙より～ *1

思い出してください
おん父へと昇られるとき
あなたは わたしを孤児にするに忍びず
あなたの 神聖な輝きを すべて覆い
自ら 地上で 囚われの身となられました
しかし 信仰のうちに
あなたの覆いの陰は 光に満ち 純一
生けるパン 天上の糧
おお 愛の神秘!
私の日毎のパン
イエスよ それはあなた!

～テレーズの詩より～ *2



伊従信子(いより のぶこ)

ノートル・ダム・ド・ヴィ

*1「神はわたしのうちに わたしは神のうちに」聖母の騎士社、聖母文庫 伊従信子著

*2「テレーズの祈り」聖母の騎士社、聖母文庫 伊従信子訳編

創造主への賛美 (32)

くのり
九里 彰

前回は「徳」の話に入ったが、キリスト教における徳とは、「あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全な者となりなさい」(マタイ 5・48)というキリストの言葉に示されている「完全さ」(perfection)のことである。

ちなみに、アピラの聖テレジアの著作“The Way of Perfection” (原語” Camino de perfección”) の訳は、『完徳の道』となっている。

この「完全さ」を、日本人は「完璧さ」と取り違える傾向があるように思われる。というのも、儒教文化に強く影響された日本では、朝廷や武家の間で有職故実が発達し、13世紀には禅の思想も加わり、日常生活の一切の立ち居振る舞い、行儀作法が大切にされてきたからである。これ自体は悪いことではないが、「昔の人々の言い伝え」(マタイ 15・2)に固執したファリサイ派の人々や律法学者たちのように、外側だけきれいにつくろい、本質的な心の部分がすっぽり落ちてしまう偽善の危険性が出てくる。

外国で生活した経験のある人が感じることの一つは、心の解放であろう。日本にいる時は、この時はこうしなければならない、あの時はこうしなければならないと、多くの慣習にかんじがらめになり、窮屈さ、息苦しさを感じていたのが、そこから解放されたという感じである。(これも、一時的なお客様として滞在しているからであって、その国に永住するとなれば、また同じような縛りが出てくると思われる。)

いずれにせよ、日本人は、私も含めて、完璧主義の病に取りつかれているかのようである。これにすでに見たこの世的な価値観が重なり、多くの人が、ちょっとした些細なことをうっかり忘れてたり、ミスしたりすると、一大事であるかのように大げさに受け止める。

ルース・ベネディクトの『菊と刀』にある「恥の文化」という表現は、当たっているように思われる。恥を受けるくらいなら、死を選ぶといった文化である。もちろん、これは洋の東西を問わないとも考えられる(西欧でも名誉を重んじ、決闘がよく行われたことは、周知の事実である。日本で言えば、メンツであろう)。

日本では、日常生活において絶えず使われる表現に、「かっこいい」「かっこわるい」がある。恰好を極度に気にする。「かっこわるい」と恥ずかしいと思うのだが、人の目を気にしているからであって、目に見える表面的な事柄にとらわれていることを、自ら証ししているようなものである。何よりも意識すべきは、神の目などであるが…。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (147)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架のヨハネはシンボル？」(1)

エコロジカルなテーマに関する専門家あるいは論文執筆者以上に、十字架のヨハネは、単なる文字を超えて、特に今日のために、有効で豊かな貢献をしてくれています。彼は、どのように自然を読み解かねばならないかということの一つのシンボルであるという予感がします。

彼のスタイルではありますが、次のように自然を見る必要があるのです。

- *自然は神から造られている。
- *自然は、人間と共に、キリストによって救い出され、贖われている。過越しの神秘により聖別されているので、神の愛や恵みの重みに耐え忍ぶことができる。
- *唯一ではないが、人間と神が出会うことのできる大きな空間である。
- *人間の精神や想像力や言葉によって、驚嘆や賛美や他のさまざまな祈りのための場である。
- *宇宙的・神的な偉大な詩を作るための素材であり、工房である。
- *神からの贈り物である。また人間の応答的捧げものは、きわめて小さなものでも、つまり、「ただ一つだけの思考も、全世界よりずっと価値あるものである」。
- *どのような種類の祈りの中でも統合可能。偉大な自然、天と地は、あらゆる時代と場所の(神に)「恋いし焦がれる魂の祈り」において、必ず統合されていなければならない。「天は私のものである、地は私のものである… すべてのは私のものである」。

十字架のヨハネは、アジジのフランシスコやヌルシアのベネディクトの調和的な「総合」のシンボルでもあります。彼が自然に敬意をはらうことやすべての被造物と詩的に対話することによって、前者と出会い、またシンボル化しているとすれば、自然そのものの変革や人間化の仕事によって、後者を模倣しているのを見ることができます。

(P. 九里訳)

三位一体

(ヨハネ 3 : 16-18)

今日は私たちを愛して下さる神、私たちが信じる神、父と子と聖霊の三位一体の神をまたその神秘をお祝いします。目に見えない神、そのお方がどの様なお方であるのか、神ご自身がご自分のことを明かして下さらなければ、決してわからなかったでしょう。

今日のみことばは、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」と始まります。神はご自分の愛する子を、目に見えない神のみことばを、神でありながら人間として目に見える形で私たちに遣わして下さいました。この世が救われるために。

独り子イエスを通してこの世を愛し、救いを実現された神。神の願いは、「独り子を信じる者が1人も滅びないで永遠の命を得るため」ですが、私たちは神から遣わされたお方を、神の御独り子を信じているのでしょうか。信じる者は裁かれず、信じない者は既に裁かれているとありますが、私たちは一体どちらの状況にいるのでしょうか。

ある聖書学者によれば、滅びと裁きは同じ現実を示しており、滅びとは神の慈しみに背を向けることで、それがすでに裁きであるとのこと。私たちは、日々の生活を通して豊かに注がれる神の慈しみを受け入れているのでしょうか、背を向けているのでしょうか。

神が私たちを愛して下さることは、創世記にある様に、ご自分を人にお現わしになるだけでなく、今日の福音の様に、ご自分の愛する独り子を世に遣わされただけでなく、イエスが天に昇られた後に、聖霊を私たちに遣わして下さいましたことからもわかります。この神の愛と慈しみに心を開き、受け入れて信じる者になることができます様に。

私たちの信じる神は、ご自身を現わし、ご自身の全てを与えて下さる父と子と聖霊の三位一体の神です。そして恵みと慈しみを注いで下さる神です。その神に心に向けて、あらためて今日のみことばを心に留めたいと思います。独り子をお与えになったほどに愛された神、独り子を信じることを望んでおられる神…。

神は三位一体のご自身の愛の交わりへと、私たちを招いておられます。私たちがその招きに応え、今という困難な時にあっても、三位一体との親しい愛の交わりのうちに、神の子としてふさわしく歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

A年 キリストの聖体

(ヨハネ6：51—58)

本日はキリストの聖体の祭日です。私たちは、感謝のうちに、イエス・キリストが御体と御血による最高のいけにえを捧げてくださったことを記念します。イエスは、私たち一人ひとりを罪から救うためにご自分の命を捧げ、ミサ聖祭のたびに、パンの形でご自分の体を私たちに与え続けてくださいます。なんと素晴らしい天上の恵みでしょう！

「命のパンの教え」とも呼ばれる本日の福音で、イエスはユダヤ人たちに向かってこう言いました。「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

イスラエル人が荒野で食べたパンのマンナも今日のテーマです。マンナは、イエスが私たちに与えた新しい命のパンと対比されます。イエスは、受肉された神のことばであり、天から降ったパンです。キリストの命そのものであるこのパンを食べて永遠の命にあずかる神的な特権を、神は私たちに与えてくださいました。イエスを信じてミサ聖祭の記念に参加する者全員に、永遠の命が約束されます。

日常生活において日々飲み食いする物が私たちと一つになるのと同じように、天からのパンであるイエスとそれを食する者は一つとなり、その者はイエスと結ばれます。「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない」、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる」、「わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる」、「これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる」と弟子たちに教えられた通りです。

本日の福音でキリストが語られた救いの各言葉を深く黙想しましょう。清い心と思いをもって「キリストの聖なる記念」にあずかり、清い良心を保ちながら御体と御血を拝領しましょう。命をもたらすキリストの教えを自分の中にしみ込ませ、神への愛と隣人への愛という愛の掟にいつも従って生きていきましょう。

キリストの聖体のお祝いにあたり、心からお慶び申し上げます。

(Sr. Paulina)

年間 第12主日

(マタイ10:26-33)

「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。」(30節)

この言葉の意味は、神は私たちのすべてを知り尽くしているということだと思います。私たちの血管も細胞も、そして心の中も。体だけでなく、心の中のどんな動きも知っておられるのです。

「主よ、あなたはわたしを究め／わたしを知っておられる。
座るのも立つのも知り／遠くからわたしの計らいを悟っておられる。
歩くのも伏すのも見分け／わたしの道にことごとく通じておられる。
わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／主よ、あなたはすべてを知っておられる。」(詩編139番)

ここで、勘違いしないよう気をつけなければなりません。神は私たちを監視しているわけではありません。監視する人は、その人の過ちばかりに気を配っています。しかし何もなければ関心を持たないのです。警察は違反行為、犯罪行為には目を光らせていますが、それがなければ、余計な関心を人に向けないのが警察です。

神は警察ではありません。神が私たちを知っている動機は、私たちが好きだからです。私たちも好きなことに関しては何でも知ろうとします。神の動機もそれなのだと思います。愛している人のことを何でも知りたい。「神は愛」だからこそ知っておられるのです。神の全能は愛から来ます。この世を愛し、人々を愛しているから、神は何でも知っているのです。

今日の福音でイエスは、この神への全幅の信頼を教えています。神を裁く方、監視する方と見るのではなく、また、神がいないかのように過ごすのではなく、このような方に愛されている、いつくしまれている、ということを中心から信じ、信頼し、喜びと感謝のうちに生きようという招きです。

まわりと比較する必要はありません。きらびやかなバラも、道端でひっそりと咲く小さな花も、神の愛を十分に受けて咲いています。小さい花は、自分はバラでないと行ってひがんだりはしません。花が、光と水を注いでくれる天に向かって咲いているように、私たちも、神のいつくしみを存分に受け、喜びと感謝を表して生きるとき、私たちは「イエスの仲間である」と宣言していることになるのです(32節)。

(今泉健 神父)

年間 第13主日 (A)

(マタイ 10 : 37-42)

本日の福音は、私たちがキリストの弟子としてキリストの寛大さや、犠牲心、自己放棄、十字架の死をも見習い、キリストのようになることを求めています。イエスは、自分が持っているものを他者に与え、また分かち合うように求めています。キリストの名において他者に与え、分かち合うには全て、犠牲と見返りを伴います。

私たちはこのことを弟子たちの生活の中に見ます。弟子たちは大きな犠牲を経て、キリストの名において喜んで死ぬ準備をしなければならないとのイエスの教えを聞きました。弟子たちはイエスが言われたことについてそのときは漠然としか分かりませんでした。時が来たときイエスの言葉を思い出し、喜んで投獄や困苦を忍び、遂にはキリストのために殉教しました。これは、キリストの復活と聖霊の到来が、この世での弱い人間をどれほどキリストのために全てを捨てた恐れぬ弟子に変えたかを示しています。弟子たちは、イエスが全ての人を天の住まいに導くために来られた神の子であると確信するようになりました。

今日の福音は、キリスト者の生活の中での暖かい思いやりの心の重要性を強調しています。イエスの名において人を喜んで迎え入れることは、イエス様自身を歓待する気持ちを拓けます。そのような寛大な行ないは、イエス様が報いてくださいます。私たちの日常の生活の中には、人に手をさしのべる機会はたくさんあります。他者を助けるためにキリストの名において協力するならば、それがどれほど小さな行ない、どれほど小さな犠牲であっても報いられます。ご褒美はこの世で頂くことは期待できないかもしれませんが、永遠のいのちの中で与えられます。これが、キリストのために献身的に、寛大に洗礼の約束を生きることへの私たちの信仰と希望に違いありません。多くの使徒や聖人たちは、キリストのために喜んで自分のいのちを捧げました。永遠のいのちを信じて、進んで自分のいのちを捧げたたくさんの殉教者がいます。

福音のメッセージを心に受けとめ、日々黙想しましょう。「預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いをうけ、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。はっきり言っておく。私の弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」イエスのこの言葉は、仲間に永遠の報いをもたらす小さな助けは、私たちを同じ目的地に到達させるでしょう、という最後の審判の言葉と同じです。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 6月

あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである

(マタイ 10・40)

マタイ福音書には、イエスが十二使徒を選び、福音のメッセージを告知らせるために派遣する様子がつづられています。

使徒たちは一人ずつ名前を呼ばれます。これは、イエスの公的生活が始まった当初から従った使徒たちと、イエスとの間に築かれた親しい関係を示唆します。

この使徒たちは、イエスに従い、行動を共にする中で、イエスがどんな方なのかを発見していったことなのでしょう。病人、罪びと、悪霊にとりつかれたとされた人たちなど、社会から忌み嫌われ、近寄るべからずとされた人たちに寄り添うイエスです。こうして、ユダヤの民に具体的な愛を示すのち、イエスは「神のみ国が近づいたことを告知らせる」ための準備に入ります。

使徒たちはイエスの名によって遣わされる者、つまり「大使」（代理）として派遣されます。代理としての彼らを受け入れる人は、派遣した方であるイエスを迎えるということになるのです。

聖書にはよく、予期せぬ客人に心を開いたことにより、神ご自身の訪問を受ける人物たちが登場します。

現代にあっても、共同体意識が根強く残る土地には、客人は神聖なものとして、たとえ見知らぬ相手であっても、最良の場を用意しもてなす風習があります。

「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである」

イエスは十二使徒に教えます。袋も持たず、下着も一枚だけ、裸足で歩くこと。客人として、しかし謙虚に、もてなされるままにすること。無償で癒しを施し、貧しい人たちに寄り添い、みなに平和の贈り物を与えて出発すること。こうして使徒たちは、たとえ無理解や迫害にあってもイエスのように耐え忍び、御父の愛の助けを確信する体験をしました。当時、幸運にも彼らの一人に出会えた人たちは、彼らを通じて、神の優しさを真に味わったことなのでしょう。

「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである」

弟子たちのように、キリスト者にはみな使命があります。柔和な心を保ち、まずは生活を通して、それから言葉を用いて、自分たちが出会った神の愛を証しすることです。そして周りのすべての人たちにも、同じように喜びを味わってもらえるようにすることです。

弟子たちは自らの弱さの中にあっても、神に受け入れられた体験があったからこそ、きょうだいを温かく迎えることができたのでしょうか。それが彼らの立てた証しだったのです。

往々にして、社会的成功や身勝手な自由を追求する現代社会にあって、キリスト者は、互いに手を差し伸べ合うきょうだい愛の美しさを証しするよう招かれています。

「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである」

キアラ・ルービックは、福音的に隣人を受け入れることについて、このように書いています。

「イエスは、私たち一人ひとりを限りなく受け入れて下さる天の御父の愛を示されたのです。それなら、私たちもお互いにこのような愛を持つべきではないでしょうか。

このみ言葉を、まずそれぞれの家庭、団体、共同体、職場で生きるように努めましょう。そして自分の中から裁き、偏見、先入観、怒り、人を許せない心を取り除くようにしましょう。このような心は、容易にしかも頻繁に姿を見せませんが、人間関係を損ない、冷たくし、まるで錆のように相互の愛を妨げるものです。

相手を受け入れること、自分と違う人を受け入れることはキリスト教的愛の土台です。そして、とくに現代、イエスとその建設に私たちを招いておられる『愛の文明』、『交わりの文化』に向かって、私たちが踏み出すべき第一歩、出発点なのです。」

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

新型コロナウイルスの猛威は私たち誰もの想像を遥かに超えて、人類の歴史にその名を刻むを確かなこととして、今なお全世界を脅威に陥れています。

あらゆる力を結集して戦うも、とにもかくにも未知であり、その上目に見えない音も立てない、それなのに極限というかどこかでは常に死を意識しなくてはならない緊迫感を強いていて、強敵という言葉をも超えている気がします。

要は感染しないことさせないことが唯一の手立てなのですが、ということは外に出ないこと人に近づかないこと触れないことであり、私たちの現在の生活のさまをあらためて眺め、考え、思い巡らすとき、それはとても不可能なことで、嘆息ため息などでは追いつきません。

蜘蛛の巣のような地下鉄の路線図を思い浮かべ、オフィス街のビル群を思い浮かべ、海を越えた外国にいる親しい人たちの顔を思い浮かべます。外国製の美しい食器で外国から昨日届いた美味しい食物を外国製のテーブルで大勢で楽しく囲むこともあるでしょう。「外国」はとても近くなり、「洋行」「渡航」もとても簡単になり、人も物も自由自在に行き来して国際化グローバル化は種々あらゆる分野に豊かに進みました。考えてみれば或る面その故にこそ、感染しないための私たちの厳しい留意工夫は私たちの生活の予期しない困窮となり、果てには生命の危機とさえなることに直面しているのだと思います。

きらびやかな街並みは今やゴーストタウンのようであり、空港に整然と並ぶ飛ばないたくさんの飛行機は玩具のように見えます。子どもたちは学校へ普段のように行きたいです。医療崩壊はほんとうに恐怖です。毎日示される感染者の数そして死亡者の数を知るのは、他人事ではなく心痛くて耐え難いです。著名人の突然の逝去の報道には呆気にとられて言葉をなくします。

今、この困難この危機は、世界中誰もかれも一人残さずすべての人に及んでいるという、考えられないような事態にただただ驚愕します。ほんとうに未曾有の危機というのでしょうか。

パンデミックの語源は、ギリシャ語の（「全て」「人々」）にあると聞きました。

あらためて深く思い考えるのです。私たちの「日常」とは如何なるものであったのでしょうか。

私は37年の生まれで、とうに80歳をこえました。

外出自粛のせいで、友人との電話（もちろん固定電話の事です）が頻度

多くなり、新型コロナウイルスのせいでその内容は自ずと、または必然的にで
しょうか、長かった人生をかえりみる会話となっているようなのです。

おそらくは今、或る終末のような雰囲気を感じていて、どこかでは
最後とかお別れとかいうことを、互いが身に帯びているのかもしれません。

久しく音沙汰のなかった思いがけないところから電話が届き、これまでの事
を想い、共に生きたことのあれこれをしみじみと語り合うという、思いなし
か別れを意識しているかの何かが漂うのです。

子どもの時に戦争を体験し、人生の終わりの時にパンデミックを体験する
という、このかけがえのない時代の共有、共存は、暗黙の同志のような深い絆を
意識するのかもしれません。

戦後のあの焼け野原のすってんてんからの復興の力、そしてここまでの喜怒哀
楽のすべてを、何らかの形で共にしてきたのですから。

「コロナはみんな同じに一人残らず苦しいんだよ これすごい事だと思わな
い？」 「全員無力もいとこだもの」 「必ず復興するけど 私たちき
つと死んでるけど 新しい世界は絶対にこれまでと同じ世界じゃないよね」 「オ
ンラインとか 人工知能とか 出てくるね」 「一人ずつ空飛んでたりする」
「幸せのあり方も違うかしら」 「幸せは われわれが知ってるものであ
ってほしいよね」 「うん」 「幸いなるかな心の貧しき者って言うじゃない」 「う
ん」

聖書をひらく時、神さまを呼び求めるしかない深い淵、無力のどん底からの
詩篇を、今、とても身近に感じています。 いつの時代にあっても詩篇は私
たちの心の内から生まれるべくして生まれてきたのだと思い知ります。

私たちは心貧しき者でありたいし、ほんとうはきっとそうなのだと思うので
す。 私たちは何でもできるけれど、でも、同時に、ほんとうは神さまだけを
頼りとする心貧しき者なのだと思うのです。

世界中の人の力を、心を、魂を、信じています。 いかなる状況であっても
信じています。 コロナ禍の終息を切に祈ります。

——— 主イエズス 来てください

(上野毛教会信徒)

糸巻き棒からペンへ(54)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

姉妹達の喜びは、その生活が全面的にキリストへと向かっていること、またそのキリストによって彼女たちの心が満たされていることの最上の証しでしょう。キリストとの一致のみが、彼女たちを、この世が必要としている光、塩、パン種へと変えることができるのです。

諸徳と苦行

サン・ホセ修道院においては、諸徳の実践、キリストやその感情との一体化、キリストとの愛の一致が繰り返し強調されていました。それゆえ、厳しさやアシエーシスは、節度と柔軟さをもって行われました。「厳格さではなく、諸徳に励むこと、これが私たちのスタイルです」。

このことが、彼女の著作で繰り返され、修道女や修道士や一般信徒へ倦むことなく勧めているテーマです。「神父様、これらの修道院でごらんになるように、私は、厳格さにおいてではなく、諸徳において熱心に励むことの友です」(アンブロジーノ・マリアーノ神父への手紙。1576年12月12日)。「それほど多くの徳がないところでは、決して厳しくしてはいけません」(ソリアのカルメル会修道女への手紙。1581年12月28日)。「祈るために夜、起きるように言われていることは、私には良いとは思われません。感じる以上の熱心さで、決して起きないように。…あなたが寝る場合、6時間より少なくてはならないと私は言い、また命じます。すでに歳がいつている私たちは、霊を破壊しないよう、体を大切にしなければならぬと考えなさい」(弟のロレンソへの手紙。1577年1月2日と2月10日)。生活の厳しさは、それ自体が目的であってはなりません。そうではなく、散心せずに、本質的なものに集中するための手段なのです。

このテーマにおいて、テレジアの態度は、苦行者の行動モデルとして考えられていたその時代の社会の大多数の意見と対立していました。苦行者たちの間で、一人の人が際立っていました。ナポリ副王の娘で、王妃の女官たちの長で、皇太子ドン・カルロス(フェリペ二世の息子で後継者)とオーストリアのドン・ホアン(王の義弟)の養育係であった高貴なカタリーナ・デ・カルドーナです。

彼女の苦行と奇行は、すべての人に知られていました。新たなエジプトの聖マリアのように(同時代の人々は彼女をこの聖女と比較しました)、洞窟に住み、風呂に入らず、服も換えず、床に眠り、汚い水を飲み、野草やカビの生えたパンを食べていました。ラ・ロダ近くの彼女の洞窟は、絶えるこのない巡礼地でした。

(P. 九里訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年4月24日

新型コロナウイルス危機に直面する私たち跣足カルメル修道会の共同体



跣足カルメル修道会総本部の総長顧問会報道官は、新型コロナウイルス感染危機に修道者たちが率先して取り組んでいる沢山の活動を把握しています。また私たちは、いくつかのカルメル修道会管区と修道院では直接にこのパンデミックによる被害を受けており、さらに悲しいことに、このウイルス感染による何人かの死者があり、被害により苦難にあっている人々のことも確認しています。多くの人々や組織グループが、私たちの兄弟姉妹たちのために、経済的援助も含め、何とかしてこの非常事態を切り抜けられるよう支援しています。それらの支援活動は、グループやグループメンバー間の連携によるもので、彼らの実例を上げるいとまがないほど多くの働きが実践されています。

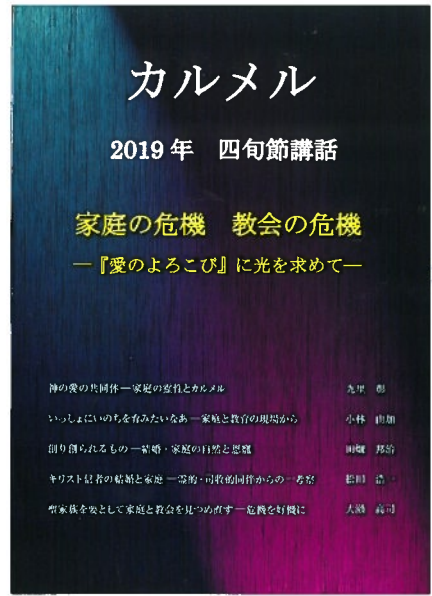
このパンデミックのさなかにあって、世界中のシスターたちの多くの共同体は病院、老人病者の施設、そして感染者達のために働く医療従事者たちのためにマスクや防護服を共同で制作して協力しています。

さらに跣足カルメル修道会管区の修道司祭達や修道院は、コミュニケーションを駆使し、とくにソーシャルネットワークを使って多岐にわたる司牧活動に取り組んでいます。

その上、私たちのブラザー達やシスター達は教会と人々に仕える最善方法を決して忘れてはなりません。彼らは祈りと共同体生活において、遠くまた近くの苦難にあっている人々のことや、今、誰もが抱えている不安を自らの心に懐きつつ、全ての人が暗闇を照らす光を見いだすように助けを差し出しています。それは、私たちが神との一致の神秘に入るときに取りに戻すことができる希望を私たちと分かち合うことです。

(訳：小宮山延子)

カルメル誌 新刊案内



2019年 冬号 No.375

《祈りを学びたい人のために》**
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(8)
 —祈りを始めるために(4)主の祈り(後編) 片山はるひ
 パウロの祈りに学ぶ(4)神の力の場である人間の弱さ
 —コリントの教会への第二の手紙 田畑邦治
 エディット・シュタインが教える祈り(III) 須沢かおり
 現代社会において 祈りの人となるには(4) 九里 彰

 風に吹かれて(22)—虫がよすぎる 原 造
 キリストに伴われて季節を巡る(8) 伊従信子
 教会の「もてなし」の使命—国籍を超えた神の国をめざして
 ポール・フェルナンデス
 カルメル会の会則に見る
 アシェーシスと修道生活(8) 九里 彰
 霊的研究会講義録(6)—聖書・祈り・愛について
 奥村一郎

2019年 特集号

「家庭の危機 教会の危機」
 —「愛のよろこび」に光を求めて—

神の愛の共同体—家庭の靈性とカルメル 九里 彰
 いっしょにいのちを育みたいなあ 小林由加
 —家庭と教育の現場から
 創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵 田畑邦治
 キリスト信者の結婚と家庭
 —靈的・司牧的同伴からの—考察 松田浩一
 聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す
 —危機を好機に 大瀬高司

ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
 各カルメル会黙想の家 他にしてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を
 下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ



スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットやAIが発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933年スペイン、バレンシア生まれ。1950年跣足カルメル修道会入会。

1957年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018年10月27日マドリードにて帰天。享年85歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990年カルメル会入会。1997年司祭叙階。1999~2002年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

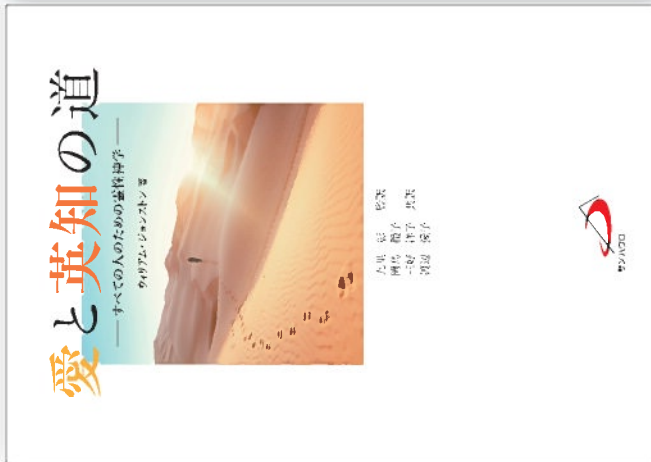
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花知
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

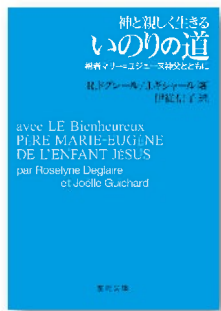
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

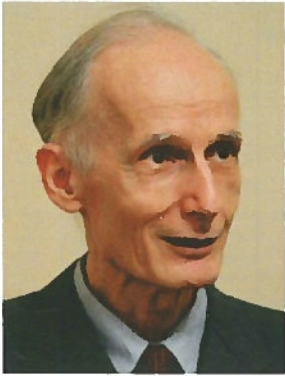
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

7月 4日(土)～ 5日(日)

10月31日(土)～11月1日(日)

2021年 2月27日(土)～28日(日)

一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

6月17日(水) 7月22日(水)

9月16日(水) 10月21日(水)

11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

7月11日(土)～12日(日) 今泉健神父

10月24日(土)～25日(日) 今泉健神父

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

奉献生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

8月 1日(土)～8月10日(月)

8月16日(日)～8月25日(火)

12月27日(日)～1月 5日(火)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
2021年 3月26日(金)～28日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士
11月 6日(金)～ 8日(日)

特別黙想会(初日20時～最終日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月13日(金)～15日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

2020年4月～8月頃まで黙想の家の改修工事を行うため、その期間、宇治カルメル会での黙想会は行われません。
それ以降については、決まり次第、お知らせ致します。


—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会
* * *
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	6/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ 新 I	7/5(土) 9:30-17:00	サダナ チーム	同上 16時よりミサ	同上
リピーターの 会@宝塚	7/23(木)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道 院(宝塚市)	西村 優子 TEL 090-8480-2661 野 真理子 TEL 090-6758-3369
札幌 フォローアップ	8/27(木) 9:30-17:00 8/28(金) 9:30-17:00 ※宿泊も可能で す。	Fr植栗	札幌カトリックセンタ ー(札幌市中央区)	本間 攝子 TEL 080-3260-1864 本間不在時は 山崎有紀 TEL 090-4720-2157
札幌サダナ I	8/29(土)9:00- 31(日)17:00 ※通いも可能で す。	Fr植栗	同上	同上
妙高サダナ I	9/5(土)9:00- 7(月)17:00	Fr植栗	妙高教会 赤倉山荘 (新潟県妙高市)	佐藤 範子 TEL080-3145-3646

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。
※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax: 042-325-7554

◆サダナ I : サダナ 1 において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じるこ
とと心の静まりを入り口として、深みに進みます。

◆フォローアップ…サダナ I を終えた方。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

12月のみマリア聖堂（ミサあり）

時間：以下の木曜日

14：00～16：00（講話と念祷）

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

【2020年】

ウィリアム・ジョンストン著『愛と英知の道—すべての人のための霊性神学—』
(サン・パウロ)を少しずつ味わいながら、共に祈ってゆきましょう。

1月23日—序論— 終了

3月26日—第一部—キリスト教の伝統 中止
—第1章—背景（1）—

5月28日—第1章—背景（1）— 中止

7月23日 第1章 背景（1） ※中止の可能性もあります

9月24日 第2章 背景（2）

11月19日 第3章 理性対神秘主義

12月17日 第4章 神秘主義と愛

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 黙 想

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月10日(日)～ 5月18日(月)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月 4日(日)～ 10月12日(月)
- ④ 12月27日(日)～2021年1月 4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 7日(金)～ 2月 9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月 1日(日)
- ③ 3月27日(金)～ 3月29日(日)
- ④ 6月12日(金)～ 6月14日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月13日(金)～11月15日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食
九里 彰 師（カルメル会）

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(カガカ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）

9月12日（土）～13日（日）

11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代（Tel. 077-579-2884）

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

「新型コロナウイルス感染症」対策として、「キリストに呼び集められた人々の集まり」である教会が集まることができない。イエスが「わたしの記念としてこのように行いなさい」といわれ、祝いつづけてきたミサの中止がつづく。この中で、あらためて「キリスト教・教会とはなんだろう？」と問い直しています。

この様な時、フランシスコ教皇の使徒的勧告『キリストは生きている』の中に次の言葉を見つけました。「ある聖人が言っています。『キリスト教は、信じるべき真理、守るべき法規、禁止事項のひとつそろいではありません。そうなったら不快です。キリスト教とは、わたしのことをあれほどまでに愛してくださり、わたしに愛を求めておられる、あのかたのことです。キリスト教とは、キリストのことなのです』」（『キリストは生きている』156）。

将来世代のために書かれたこのメッセージには、今の難しい時代を含め、教会がこれから生きていくための本質的なメッセージが豊かに詰まっています。

イエスは、最後の晩餐において、「もはや、わたしはあなたがたをしもべとは呼ばない。……わたしはあなたがたを友と呼ぶ」（ヨハネ15・15）と言われ、わたしたちをご自分との友情を生きることへと招きます。しかも、「このかたはあなたのうちにおられ、あなたとともにおられ、あなたを決して見捨てません。あなたがどれだけ離れても、復活された方はそこにいて、やり直すようあなたを呼び、待っておられます。悲しみ、恨み、恐れ、疑い、挫折により、自分が老いたと感ずいても、あなたが力と希望を取り戻せるよう、そのかたはそこにいてくださいます」（同2）。

この「イエスによって築かれる友情共同体」こそが、「キリストの教会」と明示されています。私には、「友情共同体」という言葉が新しい響きを持って伝わってきます。しかし、「友情共同体」のインスピレーションは、時代が大きく動いていく中で、神と教会への理解を新たにしていたトマス・アクイナスの神学大全からとられています（参照：同153）。

With CORONA、三密を避ける、ソーシャルディスタンスなどが問われながら、5段階の新たな社会(Society5.0)を探る時代、教会はキリストの「友情共同体」を広げていく模索をはじめています。

(Fr. 中川博道 o. c. d.)



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **6月25日(木) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456